

式辞

厳しい冬の寒さもようやくゆるみ、春の訪れが感じられるこの佳き日に、栄えある卒業証書を授与いたしました八十四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにおかれましては、深い愛情をもって、お子様を育ててこられましたことに、改めて敬意を表しますとともに、本校教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日は公私ともご多用の中、高千穂町副町長 藤本昭人様、高千穂町教育委員会教育長 戸敷二郎様をはじめ、本校ゆかりの来賓の皆さまのご臨席を賜り、高千穂町立高千穂中学校第七十七回卒業式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。卒業生の門出に花を添え、お祝いいただき、高いところからでございますが、衷心より御礼申し上げます。さて、皆さんは、私が初めて校長として送り出す記念すべき最初の卒業生であります。この一年、特別な気持ちをもって見守ってきましたが、皆さんの成長や活躍は何よりの楽しみであり、励みになりました。皆さんとの出会いは私にとって「一生の宝物」であります。

ちょうど三年前、コロナの感染による全国的な休校がほとんどなくなった頃、皆さんは本校に入学しました。しかしながら、その影響は予想以上に大きく、学校が再開した後も、様々なことが中止や縮小を余儀なくされました。部活動においても、大会やコンクールなどが中止となり、目標が突然目の前からなくなってしまう状況に、辛くて苦しく、やるせない思いをしたことだと思います。そんな状況の中でも、皆さんはじっと歯を食いしばって辛抱し、やれることを精一杯やり続けたと聞いております。そしてこの一年間も、最高学年として「これからの高千穂中学校のあるべき姿」をまさに体現し、多くのことを学び、努力を重ね、学校生活や学校行事などで例年以上の実績と感動を残してくれました。これから私たちは、皆さんが残してくれたものを「伝統の力」として、さら

に高千穂中学校の発展に邁進していきたいと思ひます。

第七十七代卒業生の皆さん、「高千穂の宝」として、多くの人に見守られ、大切に育てられてきたことへの感謝を忘れることなく、今日からは、「人から大切にされる存在」から「人を大切にする存在」になってください。「人を大切にする」思いやりのある温かい心、そんな心と心の繋がりこそが、社会を変えていく力になると思うからです。他人を大切に思う気持ちが、ひいては自分を大切にすることに繋がっていきます。人は「命」を、自分ひとりのものと考えがちです。かけがえのない「命」は、もちろん自分だけのものであり、他の人と取り替えようのないものですが、たくさんの人たちに支えられ、繋がっていることを忘れてはいけません。家族と自分、先輩や後輩と自分、地域の方々と自分、そして、周囲の友と自分。それぞれがその命を自分の中に大切に抱えながら、また、別の命に支えられて生きています。自分にとってかけがえのない命は、別の誰かにとっても、同じように、かけがえのない命なのです。ここ数年、震災やコロナ禍で、これまで当たり前だった日常が、一瞬にして崩れてしまうのを目の当たりにしてきました。元日に発生した能登半島地震では、私たち人間が大自然の一員として生きていることを否応なく気づかされました。また、海外では、紛争により尊い命が失われている国もあります。

これからの日本の社会情勢や世界情勢は、ますます大きく変化していくでしょうし、私たちが未だ経験していないようなことが起こるかもしれません。時には皆さん自身に大きな困難が押し寄せてくるかもしれません。失敗してくじけそうになるかもしれません。

でも、負けたっていいんです。くじけたっていいんです。何度でも、何度でも立ち上がって、やり直せばいいんです。失敗こそ成功への近道なのですから。そこには、間違いなく学びがあります。

それでも、どうしても、どうしても、辛い時、困った時は、自分を、自分以外の誰かを大切に思う心

を思い出してください。素晴らしい友を、家族を、皆さんを育んだこの高千穂という故郷を思い出してください。

「高千穂の宝」である皆さんには、どんな困難にもくじけることなく、乗り越えていける力強さと困った人に手を差し伸べる優しさがあると信じています。

最後になりますが、保護者の皆さま、三年間、本校の教育活動に深いご理解と惜しみないご協力を賜り、誠にありがとうございました。本日、お子様の卒業を迎え、感無量の思いと拝察いたします。これからも、お子様が健やかで思いやりのある人に育ち、周りの人や社会に勇気と希望を与える存在となりますよう、心から願っております。

この高千穂の地は、まもなく桜やおがたまの花が咲き、命の躍動する新たな季節を迎えます。必ず巡る自然の強さに思いをさせつつ、力強くこの学び舎を巣立つ皆さんの限りない前途に幸多からんことを祈念いたしますとともに、夢あふれる未来を祝福して、式辞といたします。

令和六年三月十六日 高千穂町立高千穂中学校 第三十一代校長 金丸智弘